

第1回 デ・レーケ導流堤に関する検討会

議 事 概 要

- 日 時 平成25年3月21日（木）10：00～12：00
- 場 所 佐賀県佐賀市新中町5-10 佐賀国道事務所4階会議室
- 出席者 荒牧委員、大串委員、帯屋委員、高瀬委員、阿津坂委員（代理）
古賀委員（代理）、石橋委員、松延委員

【主な審議内容】

- 規約の承認
 - ・ デ・レーケ導流堤に関する検討会規約を承認
- 委員長の選出
 - ・ 規約第4条1項に基づき、会長に荒牧委員を選出
- 橋梁計画の経緯
 - ・ 橋梁架橋地周辺の風景や歴史遺産に十分配慮する必要がある、また架橋地盤が軟弱地盤であることから有明海沿岸道路筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会を設立
 - ・ 第4回橋梁設計検討委員会(H24.3.8)で導流堤上に橋脚を配置する「鋼アーチ橋」を推奨橋種として選定
 - ・ オープンハウス(H24.6.23~H24.7.1)を実施し、大多数の方から理解を得たことを報告
 - ・ 関係機関、団体の意見から概ね異論がない状況を報告
 - ・ 委員会の推奨案を基本として詳細設計に着手
- 下部工施工時における導流堤に関する検討事項
 - ・ 以下の検討事項について確認
 1. 導流堤の解体方法
 - ①解体範囲、②解体方法の例
 2. 導流堤の調査記録方法
 - ①構造の調査、②内部構造の調査範囲
 3. 導流堤の復元方法
 - ①復元材料、②石積みの積み方、③橋脚と石積みの境界部処理
 - ④復元方法（過去の事例）
 4. 解体した導流堤の保管（展示）活用の可能性
 - ①保管（展示）方法、②保管（展示）候補箇所
- 今後のスケジュール
 - ・ 年1、2回程度開催とし、橋梁詳細設計の進捗に合わせ実施
 - ・ 施工段階では下部工施工時に開催し、現地調査を行う予定

【委員の意見】

- ・ 構造を調査するうえで裾部の取り合い（形状）をよく調べる必要がある。
- ・ 沈下や流れによる影響も把握するため調査範囲（横断方向）を広げられないか。
- ・ 導流堤の機能を確認するうえで、河床の状況を実測したデータを示すこと。
- ・ 導流堤の石積みタイプの区割りや延長の調査や既存の補修資料を収集する必要がある。
- ・ 小長井で調査すれば補修前の形状が明らかになる可能性がある。（導流堤補修に小長井の業者が携わっているとの情報があるため）
- ・ 文化財行政の立場から調査しておくべき事項を整理する。
- ・ 常時展示することは重要。
- ・ 石積みの技術など背景の調査も必要。
- ・ 多岐に渡る議論について委員会だけで行うのは無理があるので、勉強会などの情報共有の場を設けることを提案された。
- ・ 軟弱地盤にも関わらず沈下を防いでいる粗朶沈床の技術や効果を調査することが特に重要。